

(様式1)

令和4年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立八広小学校
校長名	勝田 光徳

1 本校の学力に関する状況

(1) 墨田区学習状況調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・国語科では、観点別平均正答率「思考・判断・表現」「主体的に取り組む態度」が2～6年生の全学年で全国平均を上回った。特に、5・6年生の「主体的に取り組む態度」ではそれぞれ、13.4、17.1%と全国平均を10ポイント以上上回っている。・社会科では6年生が「主体的に取り組む態度」では3ポイント以上全国平均を上回った。・算数科では、2～6年生で15観点中12の観点で全国平均を上回った。特に、2年の「思考・判断・表現」「主体的に取り組む態度」では全国平均を10ポイント以上上回っている。・理科では、昨年度観点別平均正答率が10ポイント以上全国平均を下回っていた学年があったが、今年度5年生は4ポイント、6年生は2ポイント程度に差が縮まった。・英語科は昨年度3観点とも全国平均を4ポイント以上下回っていたが、全国平均との差が1～2ポイント程度に縮まった。	<ul style="list-style-type: none">・国語科の観点別正答率「知識・技能」では、5年生以外全国平均を下回っている。特に、4年生は-4.1ポイント、6年生は-2.1ポイントと低い。・社会科では各学年の9観点のうち8観点で全国平均を下回っている。特に4年は5ポイント程度下回っている。・算数科では、4年が3観点全て全国平均を下回った。特に、「思考・判断・表現」では全国平均を9.8ポイント下回っている。・理科では、9観点中8観点が全国平均以下である。特に、4年生の「思考・判断・表現」「主体的に取り組む態度」、5年の「知識・技能」は全国平均より4ポイント以上下回っている。・英語科は3観点とも1～2ポイント程度、全国平均を下回っている。

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・「目標に向けて普段からコツコツ勉強している」において、肯定的な回答が4年生63.4%、5年生61.5%、6年生66.7%となっており、学年が上がるにつれて高くなっている。特に6年生は区の6年生の平均63.2%より3.5ポイント高くなっている。	<ul style="list-style-type: none">・「学校の授業以外で、週に何日くらい勉強していますか」において、「毎日勉強している」と回答した児童は2年生44.7(55.9)%、3年生29.9(43.3)%、4年生31.7(43.3)%、5年生47.6(45.5)%、6年生31.3(49.0)%と5年生以外全国平均(カッコ内)より下回っている。

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
<p>【算数科 東京ベーシックドリル診断シートの結果】</p> <p>○満点率</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2年生 3月 4.8%→5月 8.2% (+3.4) ・ 6年生 3月 1.2%→4.2% (+3.0) <p>○平均正当率</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3年生 3月 47.1%→48.7% (+1.6) ・ 5年生 3月 52.0%→57.9% (+5.9) 	<p>【算数科 東京ベーシックドリル診断シートの結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3年生満点率 3月 1.3%→5月 0% (-1.3) ・ 4年生満点率 3月 3.8%→5月 1.2% (-2.6) ・ 4年生平均正答率 3月 67.2%→60.0% (-7.2) ・ 3・4・6年の「資料の整理」「表とグラフ」、5・6年の面積・体積の単元が正当率40%以下だった。計算単元は、全学年正当率40%以下であり課題がある。

2 本年度の学力向上に関する主な取組

(1) 年間を通した学力向上の取組 ～基礎・基本の定着に向けて～

学力向上の取組を年間を通して、学力向上委員会を中心に計画的・組織的に行う。全学年・学級で確実に取り組み、各教科において基礎・基本の定着を図る。

時期	主 な 取 組				
4月	学力向上ふりかえり期間④【直前対策②】 ※区学力調査過去問題・類似問題の取組 区学力調査・全国学力調査の実施	放 課 後 補 充 教 室	さ わ や か タ イ ム (朝 学 習 ・ 朝 読 書)	授 業 で の 「 ふ り か え り シ ー ト 」 や 練 習 問 題	家 庭 学 習 (音 読 、 計 算 ・ 漢 字 、 社 会 、 理 科 日 記 、「 ふ り か え り シ ー ト 」、 ミ ラ イ シ ー ド 等)
5月・6月	調査実施後の振り返り、 都学力調査の実施区学力調査結果分析				
7月・8月	夏休み補習教室①・②				
9月～ 10月	学力向上ふりかえり期間① ※家庭学習取組強化週間				
12月	冬休み前ふりかえり期間 (「身に付けるべき学習内容」の定着度の確認)				
1月 ～2月	学力向上ふりかえり期間②【学年末重点】 後期学力テストの実施				
3月	学力向上ふりかえり期間③【直前対策①】 ※区学力調査過去問題・類似問題の取組 (間違えたところは必ず復習させる。)				

①学習ふりかえり期間（基礎・基本の確実な定着を図る重点期間）

- ・ 学習内容を確実に定着させるため、授業内で「ふりかえりシート」を活用して定着を図る。併せて学年や単元の内容に応じて漢字・計算ドリルなどの練習問題やミライシード等で習熟を図る。

②後期学力調査の実施（学力向上の取組の効果検証）

- ・子供たちの年度内の学習の定着度を把握するため、1月に後期学力調査（国・算）を実施する。

③校内学力向上ヒアリングの実施

- ・学力向上プランをもとに、学年ごとに校内ヒアリングを行い、「学力向上ふりかえり期間」の前に課題や取組内容を確認することで、計画的・組織的に行う。

④学力向上委員会を中心とした組織的な取組

- ・各学年の取組については学力向上委員会が進行・管理を行う。「ふりかえりシート」「ベーシックドリル診断シート」の印刷依頼・実施の周知、実施状況の把握、結果分析等を計画的に行う。
- ・当該の一つ下の学年に本年度の学力調査の課題を伝える機会をもち、共有する。日頃の授業で意識して指導するとともに、学習ふりかえり期間でも重点事項として取り組むようにする。

⑤計画的な家庭学習（宿題）の実施

- ・基礎・基本の定着のため、計画的に家庭学習を行う。音読（毎日）、漢字・計算ドリル、週末の日記、「ふりかえりシート」を学年の実態に応じて宿題として出す。授業や朝学習の時に答え合わせし、見直しをする（間違えたままにしない）。
- ・特に「学習ふりかえり期間中」に「宿題取組強化週間」を設定し、家庭と連携して家庭学習の習慣を身に付けさせる。
- ・3年生以上は週に1回以上は社会科か理科の宿題を出すようにする。

⑥社会・理科の取組

- ・単元ごとに「ふりかえりシート」や練習問題、単元末テストで総復習を行う。「問題データベース」等のプリントを活用し習熟を図る。必ず覚えなければならない用語（キーワード）は確実に覚えさせる。
- ・学力テスト対策プリント（3年分を大問ごとにまとめたもの）を作成し、ふりかえり期間に実施する。
- ・朝学習や家庭学習でも社会・理科についても計画的に取り組む。

⑦朝学習「さわやかタイム」と朝読書の取組

- ・週3回実施される「さわやかタイム」について、学年ごとに計画を立て確実に実施する。

火…国語(漢字・読解・書くこと) 水…算数(計算) 金…朝読書

※必要に応じて適宜、社会科・理科についても取り組ませる。

(2) 学力を定着及び向上させるための授業改善 ～学習内容の確実な定着に向けて～

①問題解決型の授業展開を定着させる（「八広小授業モデル」）

- ・授業では、問題解決型の学習や体験学習を取り入れる。児童が自ら課題を設定し、課題解決を通して自ら考え判断し、表現できる能力を育成する。

- 0 復習（既習事項の確認）
- 1 課題提示（学習課題を立てる。めあてを提示する）
- 2 解決の見通しをもたせる
- 3 自力解決（自分で考える）
- 4 発表・検討（友達と考える）
- 5 まとめる（学習の振り返り）
- 6 適用問題（定着を図る）

- ・各教科の学習において、自分で考えたことを発表し、話し合う機会を設定する。各教室に話型を掲示し、自分の考えを発表したり話し合ったりできるようにする。グループ学習や対話型学習を取り入れ、友達の良さ考えを認め合い、協同して学ぶ意識をもたせながら学習を進めていく。
- ・タブレット端末（ロイロノートスクール）を活用し、子供たち同士の情報の共有や話し合いを効率的に行うようにする。
- ・授業では「書くこと」に重点を置き、自分の考えや感想を文章に表す機会を設ける。また、学習の振り返り（復習）ができるようノートやワークシート書き取りを重視し、書き方を継続的に指導する。

②個に応じた指導を充実させる

- ・算数では、3年生以上で習熟度別指導を実施する。低・中学年には少人数指導や個別指導を通して個に応じた指導の充実を図り、「ふりかえりシート」等を活用し基礎学力の充実を目指す。実施後は必ず答え合わせや見直しを行い、間違えたままにしない。

③「各学年終了までに必ず身に付けさせたいこと」を確実に身に付けさせる

- ・各学年で確実に身に付けさせる内容を決め、授業及び家庭学習で指導し、全児童に確実に身に付けさせる。

1年	10の合成、繰り上がり繰り下がりのあるたし算・ひき算	2年	かけ算九九、時刻と時間
3年	2けたをかける計算、わり算、ローマ字	4年	2けたのわり算、47都道府県
5年	小数のわり算、分数のたし算・ひき算	6年	分数のかけ算・わり算
※単位についても各学年で身に付けさせる(2年長さ・水のかさ、3年重さ、4年面積、5年体積)			

(3) ICT機器の活用を推進する取組

①興味・関心をもたせる授業を展開する。

- ・問題解決型の授業をより効率的に行うために、タブレット端末やプロジェクターを活用する。ロイロノートスクールなどのソフトウェアを使って分かりやすく動画や資料などを提示したり、話し合い活動を充実させたりし、児童の興味・関心を高める授業を行う。

②タブレット端末を活用し、家庭学習の強化を図る。

- ・タブレット端末を活用し、「ふりかえりシート」「ミライシード」などのドリル系の家庭学習を計画的に行う。

3 「令和5年度 墨田区学習状況調査」における目標

- ・すべての学年で国語科・社会科・算数科・理科・英語科の観点別の平均正答率を全国平均以上にする。
- ・全国平均以上の観点については、各教科の観点別の平均正答率を、全国平均＋5とする。